

畜産農場における食中毒菌汚染低減に向けた野生動物の侵入防止策及び
衛生害虫のまん延防止策の確立

研究期間	平成 26 年度～平成 28 年度
課題番号	2604
研究実施機関	<p>家畜衛生対策研究グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(大)岐阜大学 ・日本獣医生命科学大学 ・(大)東京農工大学 ・(一財)生物科学安全研究所
研究概要	<p>安全な畜産物を安定供給するためには、畜産農場において、家畜疾病を予防するだけでなく、人に食中毒を引き起こす食中毒菌の低減対策を行うことが必要となります。食中毒菌の畜産農場への侵入及び農場内伝播には野生動物や衛生害虫が関与しています。また、野生動物や衛生害虫が家畜損耗性疾患の原因微生物(病原性大腸菌、コクシジウム等)に感染していることもあります。</p> <p>このため、野生動物及び衛生害虫の食中毒菌並びに家畜損耗性疾患の原因微生物の感染状況を明らかにするとともに、実行可能な野生動物の侵入防止策及び衛生害虫まん延防止策を確立するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>本研究課題では、野生動物と衛生害虫が食中毒菌及び家畜疾病病原体を保有するため、公衆衛生及び家畜衛生面で防除対策が必要であることを十分に示しました。</p> <p>得られた成果の概要は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農場及びその周辺で捕獲された野生動物や衛生害虫が保有する食中毒菌や家畜衛生病原体を検出し、微生物学的リスクを明らかにした。 ・ 野生動物の生態や行動様式、また野生動物が出没する畜舎環境の特徴を解明し、種類別の侵入防止方法を構築した。 ・ 衛生害虫であるハエは食中毒菌を保有することや感染環に関与する可能性を確認し、ハエ対策の重要性を明らかにした。また、脱皮阻害剤を用いたハエ防除方法が有効であることを示した。 ・ 家畜損耗性疾患の原因微生物による感染症の制御が生産性の改善に関与することを示す情報を得た。
行政における研	本研究により確立された野生動物の侵入防止策及び衛生害虫

研究成果の活用方針(平成29年9月時点)	のまん延防止策について、以下の既存ハンドブックに反映する。 <ul style="list-style-type: none">・ 鶏肉の生産衛生管理ハンドブックー肉用鶏農場・生産者編ー安全な鶏肉を生産するために農場でできること・ 鶏肉の生産衛生管理ハンドブック(参考資料)ー肉用鶏農場・指導者編ー
----------------------	--

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載